

K120.73

41

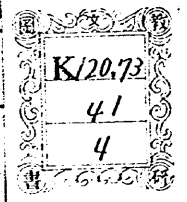
4

教育音樂講習會編纂

第四集

新編
教育唱歌集

東京
開成館藏版



教育音樂講習會編纂

第四集

新編
教育唱歌集

東京
開成館藏版

明治
38 年 24
內交

新教育唱歌集第四集目次

一 自轉車……………	二
二 曾我兄弟……………	三
三 師を送る……………	七
四 君のため……………	九
五 金剛石……………	一二
六 玉の宮居(音樂學校許可)……………	一五
七 矢玉は霞(音樂學校許可)……………	一七
八 富士山(音樂學校許可)……………	一九
九 四季の富士……………	二二

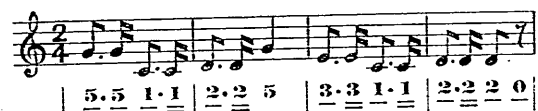
一〇 四季の月(音樂學校許可)……………	二五
一一 太平洋……………	二七
一二 黃海の戦……………	二九
一三 若紫(音樂學校許可)……………	三一
一四 薰に知らるゝ(音樂學校許可)……………	三三
一五 豐太閤……………	三五
一六 海國男兒……………	三七
一七 白蓮白菊(音樂學校許可)……………	四〇
一八 陸戦……………	四二

(第四集)

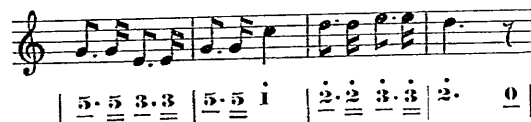
一九 修學旅行……………	四六
二〇 螢の光(音樂學校許可)……………	四九
二一 汽船……………	五一
二二 河涼……………	五三
二三 植物園……………	五五
二四 漁業の歌……………	五九
二五 勤勉正直(國定修身書)……………	六一
二六 勅語奉答……………	六四
二七 學校紀念日……………	六七
二八 始業式……………	六九

二九 終業式……………	七一
三〇 卒業式……………	七三
三一 日の丸の旗(國定修身書)……………	七五
目次終	

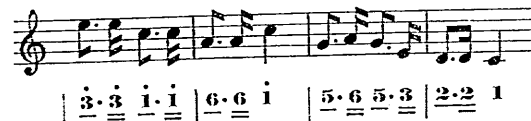
自轉車



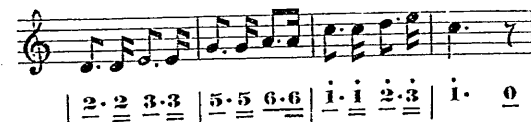
(一) フ タ ツ ノ ク ル マ オ ト ナ モ タ テ ズ
(二) つ か れ も し ら め ま た た く ひ ま に
(三) コ コ ロ ノ マ マ ニ オ ソ ク モ ト ク モ



ヒ ト ナ モ ク マ モ ア ト ニ ミ テ
さ と な も の な も は や す ぎ て
ハ ー シ ル ク ル マ オ モ シ ロ ヤ



タ チ マ チ キ メ ル イ チ リ ノ ミ ー チ
つ ば さ の あ る と か ー ば ら れ ー ば
ハ ー ル ノ ア シ タ ア ー キ ノ ユ フ ベ



カ ホ フ ク カ セ ノ ー コ コ ナ ヤ
そ ら と ぶ と リ な ー コ ノ ク ル マ
サ ガ イ ノ ト モ ハ ー コ ノ ク ル マ

自轉車

(一) 一二つの車音をも立てず、人をも馬もあとに見て、

たちまち來ぬ一里の道。顔ふく風のこゝちよや。」

(二) つかれも知らぬ瞬くひまに、里をも野をも、早過ぎて、

翼のあるとかげられれば、空とぶ鳥をうらやまじ。」

(三) 心のまゝに、遅くも、疾くも 走る車、おもしろや。

春のあした、秋の夕、野外の友はこの車。」

曾我兄弟

曾我兄弟

(一) 富士の裾野の狩の庭

關八州のつばものを

あつめて、こゝに狩りくらす

威勢かがやく右大將

(二) 目ざすかたきの祐經が

陣屋は、何處こよひこそ

討ちて恨をばらさんと、

待てば夕の暮れがたき。」

(三) 晴間も見えぬ五月雨に、

燃えんとしてけまたしめる

松明の光をたのみにて、

忍び入りこむ敵の小屋。」

(四) いか、に、祐經とくさめよ。

曾我の五郎ぞ。十郎ぞ。

忘れもすまじ。父の仇、

討に來ると知らざるか。」

(五) 刀とるより立ちあがる

敵めがけて、兄弟が

岩もとほれと斬りつくる、

みよや、孝子の一念を。」

(六) 見事あたをば報いたり。

心にかゝる雲もなし。

縛らばしはれ。斬らば、きれ。

命生きても、何かせん。」

(七) 五月雨はれて千秋の

雪なほ白し、富士の峯。

清くけだかき姿こそ

わが國民の鏡なれ。」

師を送る



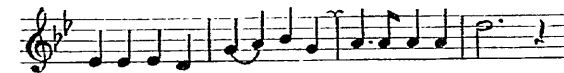
| 1. 1 7 6 | 1. 1 3 - | 3 1 7 6 | 7 - 0 |

(一) マナビノニハノチチハハト
(二) わかれてのちもみなしへは



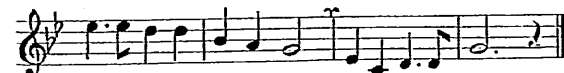
| 6 - 1 3 | 6 7 1 6 | 7 7 7 7 | 3 - 0 |

ア フギ マツリシ シノキミニ
か たく まもりて ほげまし



| 1 1 1 3 | 6 7 1 6 | 7 7 7 7 | 3 - 0 |

ワカレル ケーフノ カナシサヨ
ち ちの めぐみの ひとつだに



| 1. 1 3 3 | 1 7 6 - | 1 2 3 3 | 6 - 0 ||

オモヘバ サメヌ ユメニニテ
むくゆる みちと なるまで

師を送る

(一)

まなびの庭の父母と
仰ぎまつりし師の君に

わかるゝけふのかなしさよ、

思へば、さめぬ夢に似て。

(二)

わかれて後も、みをしへは

かたく守りて、勵ままし、

千々のめぐみの一つだに

むくゆる道となるまでに。

君のため

(一) キー ミ ノ タ メ ニ ハ ミ チ リ スー レ
 (二) くー に の た め に ほ い へ な すー て
 (三) マー ス マ ツー グ セ キ ミ ノ ダー メ
 (四) あー ま つ ひ つ ぎ の み く ら あー は

(一) イ ノ チ ナ スー テ カ ヘ リ ミ ズ
 (二) さ ノ な や ぶ り て か へ り み す
 (三) イ ヨ イ ハー グ メ ク ニ ノ タ
 (四) セ カ い のー そ む な な ら す

コー レゾー セカイニ タケヒナ キ
 コー レゾー ちきばに すぐれた る
 コー レゾー ヒイブル クニノ ナ
 ひいづとー いーへる くのに は

ヒイブルル クーニノ オミミチ
 ひいづるニ カガヤす たのキナ
 りきゅーな てーらす ななす
 ちがル

君のため

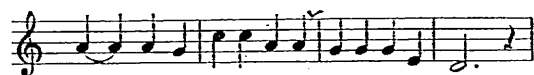
- (一) 君のためには身を忘れ、命をすてて、かへりみず。
 これぞ世界に類なき 日出づる國の臣の道。」
- (二) 國のためには家をすて、産をやぶりにて、顧みず。
 これぞ地球にすぐれたる 日出づる國の民の性。」
- (三) ますく盡せ、君のため。いよくはげめ、國のため。
 これぞ日出づる國の名の 宇宙にかがやく基なる。」
- (四) 天津日嗣の御位は 世界に臨む名ならずや。
 日いつといへる國の名は 地球をてらす名ならずや。」

金 剛 石



1 1 1 3 | 2 2 2 1 | 2 2 3 3 | 5- 0 |

(一) コンゴ - モー キモ ミガカズ パー
(二) み - づ は うつ は に した が ひ てー



6 6 6 5 | 1̇ 1̇ 6 6 | 5 5 5 3 | 2- 0 |

タ - マ ノ ヒ カ リ ハ ソ ハ ザ ラ ン -
そ の さ ま ざ - ま に な り め な リー -



1- 1 1 | 2 2 5 5 | 3 3 5 5 | 6- 0 |

ヒ - ト モ マ ナ ビ テ ノ チ ニ コ ソー
ひ - と は ま じ ば る と も に よ リー -



1̇ 1̇ 2̇ 2̇ | 6 6 5 5 | 6 6 6 2̇ | 1- 0 |

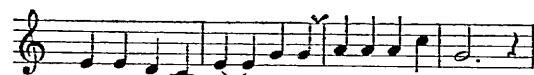
マ コ ト ノ ト - ク ハ ア ラ ハ ル レー
よ - き に あ し き に な り め な リー -

金 剛 石 (つづき)



1̇ 1̇ 1̇ 1̇ | 2̇- 1̇ 6 | 5 5 3 1 | 2- 0 |

ト ケ イ ノ ハ - リ ノ タ エ マ ナ クー
お の れ に ま - さ る よ き と し なー



3 3 2 1 | 3 3 5 5 | 6 6 6 1̇ | 5- 0 |

メ ケ ル ガ ゴ - ト ク ト キ ノ マ モー
え - ら び し と め て も ろ と も にー



1̇ 1̇ 1̇ 1̇ | 6 6 5 5 | 3 3 2 3 | 5- 0 |

ヒ - カ ゲ チ シ ミ テ ハ ゲ ミ ナ パー
こ こ ろ の こ - ま に む ち う ち てー



2̇ 2̇ 2̇ 1̇ | 6 6 5 3 | 2 2 3 2 | 1- 0 ||

イ カ ナ ル ソーザカ ナラザラ ン -
ま な び の み - ち に す す む べ しー

金剛石

(一) 金剛石も、みがかずば、

たまの光は、そばざらん。

ひともし、學びて、後にこそ、

まことの徳は、あらはるれ。

時計のはりの、たえまなく

めぐるがごとく、ときのもも、

光陰惜みて、はげみなば、

いかなる業か、ならざらん。」

(第四集)

(二) 水はうつはに、したがひて、

そのさまざまに、なりぬなり。

人は交る、友により、

よきにあしきに、なりぬなり。

おのれに優る、よき友を

えらびもとめて、もろともに、

こゝろのこまに、むちうちて、

學の道に、すゝむべし。」

玉の宮居

(一) ターマノ ミヤキハ アレハテ テーアメ
 (二) ふーゆの よさむの つきさえ てーひま

サヘツユ サヘイト シダケレ ドー
 もるかぜ さへみを きるばか リー

ターミノ カマドノ ニギハヒ ハーダツ
 たーみを おもほす みこころ にーおほ

ケムリニ ソーアラ ハレニケ ルー
 みこころも やーぬが せたまひ しー

玉の宮居

(一) 玉の宮居は あれはてて、

雨さへ露さへ いとしげけれど、

民のかまどの にぎはひは

たつ烟にぞ あらはれにける。」

(二) 冬のよさむの 月さえて、

ひまもる風さへ 身をきるばかり。

民をおもほす みこころに、

大御衣や ぬがせたまひし。」

矢玉は霰



1. 1 2. 2 | 3. 2 1. 2 | 3. 3 3. 4 | 5- 0- |

(一) ヤ ダ マ ハ ア ラ レ ト フ ル ナ カ チー
(二) あ ら ち は さ わ ぎ て う み く ら しー
(三) ス マ ン ノ ツ ハ モ ノ ヌ キ ツ レ テー

5. 1 3. 2 | 1. 2 3. 4 | 5. 6 5. 3 | 2- 0- |

ス ス メ ヨ マ ス ラ チ オ ク ル ナ ヨー
お そ へ る て き ば お に な り とー
キ ラ メ ク イ ナ ツ マ ト キ ノ コ エー

1- 2 2 | 3 3 2 1 | 3 3 2 1 | 7- 0- |

ター ト ヒ イ ノ サ ハ ス ツ テ モー
ほー ふ り つ く し て と つ く に にー
ヒー ト ノ オ ド ロ グ イ グ サ シ テー

5 5 6 6 | 5 5 3- | 2 2 1 2 | 3- 0- |

ミ グ ニ ノ タ ミ ノ チ チ シ サ チー
み く に の た み の な な し さ なー
ミ グ ニ ノ タ ミ ノ チ チ シ サ チー

5- 3 2 | 1 1 2 2 | 3 3 5 6 | 3. 2 1 0 ||

ミー セ ヨ シ メ セ ヤ ソ ノ チ ナ シ サ チ
みー セ ヨ し め セ ヤ そ の な な し さ な
ミー セ ヨ シ メ セ ヤ ソ ノ チ ナ シ サ チ

矢玉は霰

- (一) 矢玉は霰と降る中を 進めよ。益荒雄。おくるなよ。
- (二) 暴風はさわぎて、海くらし。おそへる敵は鬼なりと、
ほふり盡して、外つ國に 御國の民のを、しさを
見せよ。示せや、そのを、しさを。
- (三) 數萬のつげものぬきつれて、閃めくいなづま、聞の聲。
人のおどろくいくさして、御國の民のを、しさを
見せよ。示せや、そのを、しさを。

富士山

(一) フモトニ ク モノ カカリケ ル
 フジテフ ヤ マノ ミソタシ ニ
 (二) とつくに びと あふぐ な り
 ふじてふ や まの みわたし に

タ カ ネ ニ ユ キン ツ モ リ タ ル
 シ ク モ ノ モ ナ シ ニ ル モ ナ シ
 わ が く に び と ほ こ る な り
 し く も の も な し に る も な し

ハ ダ ヘ ハ ユ キ コ ロ モ ハ ク モ
 て る ひ の か げ そ ら ゆ く つ き

ソ ノ ユ キ ク モ ナ ヨ ソ ヒ タ ル
 つ き ひ と も に か が や き

富士山

(一) 麓に雲ぞかゝりける。高嶺に雪ぞ積りたる。

肌は雪、衣は雲。その雪雲をよそひたる

富士てふ山のみわたしに、しくものもなし。似るもなし。

(二) 外つ國人も仰ぐなり。わが國人も誇るなり。

照る日のかげ、空行く月。月日と共に輝きて、

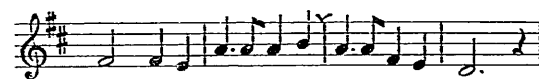
富士てふ山の見わたしに、しくものもなし。似るもなし。

四季の富士



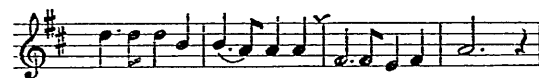
| 3. 3 3 2 | 5- 5 6 | 5. 5 3 1 | 2- 0 |

- (一) カスメル ソーラニ キエノコ ルー
 (二) すずしき なみに かげうつ すー
 (三) ユフヒノ ソーラニ ハエマサ ルー
 (四) つもるが うへに つもりそ ふー



| 3- 3 2 | 5. 5 5 6 | 5. 5 3 2 | 1- 0 |

フー ジノ タカネノ ハルノユ キー
 ふー じの たかれの なつのゆ きー
 フー ジノ タカネノ アキノユ キー
 ふー じの たかれの ふゆのゆ きー



| 1. 1 1 6 | 6. 5 5 5 | 3. 3 2 3 | 5- 0 |

ユキ カフ キー シャノ マドノウ チー
 たーごの うらわに こぎいで てー
 ヨー ジノ タツタノ ハナモミ ダー
 きーよく けだかき すがたよ とー

四季の富士 ついき



| 6. 6 6 5 | 1- 6 6 | 5. 5 3 2 | 1- 0 |

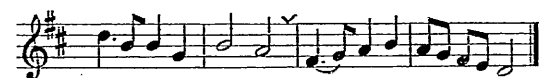
タビスル ヒートノ ナガムラ ンー
 つりする あー まし ながむら ンー
 ナガメモ イー カデ オヨヅベ キー
 よーもの くに びと あふぎみ ンー

(合唱)



| 5. 5 6 6 | 6 1. 6 5- | 3. 1 2 3 | 5. 6 5- |

アナオモ シロー ノー ヤー マノ ケシ キー
 あなおも しるー のー やー まの けし きー
 アナオモ シロー ノー ヤー マノ ケシ キー
 あなおも しるー のー やー まの けし きー



| 1. 6 6 4 | 6- 4- | 3. 4 5 6 | 5 4 3 2 1- ||

アナナツ カーシー ハー ルノ ナー ガー メー
 あななつ かー しー なー つの なー がー めー
 アナナツ カーシー アー キノ ナー ガー メー
 あななつ かー しー ふー ゆの なー がー めー

四季の富士

(一) 霞^{かす}める空^{そら}に消^きえのこる 富士^{ふじ}の高嶺^{たかね}の春^{はる}の雪^{ゆき}

ゆきかふ汽車^{きしや}の窓^{まど}のうち、旅^{たび}する人^{ひと}のながむらん。」

合唱「あな、おもしろの山^{やま}の景色^{けしき}。」

あな、なつかし、春^{はる}のながめ。」

(二) 涼^{すず}しき波^{なみ}に影^{かげ}うつす 富士^{ふじ}の高嶺^{たかね}の夏^{なつ}の雪^{ゆき}

田子^{たご}の浦^{うら}曲^{まが}にこぎいでて、釣^{つり}する海士^{あま}もながむらん。」

合唱「あな、おもしろの山^{やま}の景色^{けしき}。」

あな、なつかし、夏^{なつ}のながめ。」

(第四集)

(第四集)

(三) 夕日^{ゆふひ}の空^{そら}にはえまさる 富士^{ふじ}の高嶺^{たかね}の秋^{あき}の雪^{ゆき}

吉野^{よしの}龍田^{たつた}の花^{はな}もみぢ、ながめもいかでおよぶべき。」

合唱「あな、おもしろの山^{やま}の景色^{けしき}。」

あな、なつかし、秋^{あき}のながめ。」

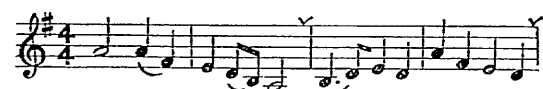
(四) つもるが上^{うへ}に積^{つも}りそふ 富士^{ふじ}の高嶺^{たかね}の冬^{ふゆ}の雪^{ゆき}

清^{きよ}くけだかき姿^{すがた}よと、四方^{よしも}の國人^{くにびと}あふぎ見^みん。」

合唱「あな、おもしろの山^{やま}の景色^{けしき}。」

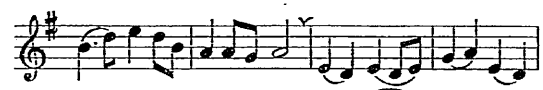
あな、なつかし、冬^{ふゆ}のながめ。」

四季の月



2-2 7 | 6 5 3 2- | 3 5 6 5 | 2 7 6 5 |

- (一) サ- キ- ニホ- フ- ヤ- マノ サクラノ
 (二) あ- め- すぎ- し- に- はの くさばの
 (三) ミ- ル- ヒト- ノ- コ- コロ ゴコロニ
 (四) み- づ- とり- の- こ- 糸も みに しむ



3. 5 6 5 3 | 2 2 1 2- | 6 5 6 5 6 | 1 2 6 5 |

ハ- ナノ- ウヘ- ニ- カ- ス- ミ- テ-
 つ- ぐの- うヘ- に- し- ば- し- ば-
 マ- カセ- ガキ- テ- タ- カ- ネ- ニ-
 い- けの- おし- に- き- な- が- ら-



3 5 6 | 2 1 3 5 | 6 5 3 5 3 | 2 1 2- ||

イ デ シ- ハ- ル- ノ- ヨノ- ツ- キ-
 や ど る- な- つ- の- よの- つ- き-
 ス メ ル- ア- キ- ノ- ヨノ- ツ- キ-
 こ ほ る- ふ- ゆ- の- よの- つ- き-

四季の月

(一) さきにほふ 山の櫻の花のうへに、

(二) 雨すぎし 庭の草葉の つゆのうへに、
 霞みていでし 春の夜の月

(三) みる人の ころごころに まかせおきて、
 高嶺にすめる 秋の夜の月

(四) 水鳥の こゑも身にしむ 池のおもに、
 さながらこぼる 冬の夜の月

太平洋



5 6.5 3 5 | 1̇ 2̇.1̇ 6- 7 7.1̇ 2̇ 3 | 1̇ 7.6 5-

(一) ミラータス カギー リーソラーウチ カスーミー

(二) かーざり しられぬ あなうな ぼらにー

(三) ソーダル チフネ チャイトーヤス ラケークー



5 6.5 3 5 | 1̇ 2̇.1̇ 6- 7 7.1̇ 2̇ 3 | 1̇- 0

ワンエンバン リーキハモナ シー

いでてはしづむつきのか げー

センジュ マモール フジノキ マー



3 3 1̇ 3 3 2̇ 2̇ 6 2̇- | 2̇ 2̇ 3. 2̇ 2̇ 1̇ 1̇ 6 5-

ナミタチ アーレーズ カセシグ カーニーデー

すみたる るーリーのーみそらの あーなーたー

カーミト タフトーキーソノス ガ ターチャーバー



5 6.5 3 5 | 1̇ 2̇.1̇ 6- 7 7.1̇ 2̇ 3 | 1̇- 0

カガミニニター ルタイーヘイ ヨー

たちてはきゆーるーくしーのめ ねー

アフォーガマヒトーゾーナカーリケ ルー

太平洋

(一) 見渡すかぎり、空うちかすみ、雲烟萬里、きはもなし。

波立ち暴れず、風静にて、鏡に似たる太平洋。」

(二) かぎり知られぬ青海原に、出でては沈む月の影。

澄みたる瑠璃のみ空のあなた、立ちては消ゆる雲の峯。」

(三) 渡る千船をいと安らげく 千秋守る富士の山。

神とたふときその姿をば、仰がぬ人ぞなかりける。」

黄海の戦

Musical score for 'Yellow Sea Battle' (黄海の戦) in G major, 2/4 time. The score consists of four staves of music with corresponding lyrics in Japanese. The lyrics are: (一) 硝煙看るく山をなし、砲弾恰も電に似たり。浪は激して天を衝き、日光暗黒風咽ぶ。あな、怖しや、凄じや。これぞ真の修羅の海。縦横自在に駆け回る、神變不測の松島艦。虬は躍り、鰐怒る、波を蹴破る西京丸。奮闘激戦雷を驅り、電を突く裂く赤城艦。轟裂の響天を撃ち、或は沈み、または焼け、または逃げ散る敵の艦。凱歌の聲も高千穂の檣頭さして下る鷹。

(第四集)

黄海の戦

(第四集)

Lyrics for 'Yellow Sea Battle' (黄海の戦) in Japanese. The lyrics are: (一) 硝煙看るく山をなし、砲弾恰も電に似たり。浪は激して天を衝き、日光暗黒風咽ぶ。あな、怖しや、凄じや。これぞ真の修羅の海。縦横自在に駆け回る、神變不測の松島艦。虬は躍り、鰐怒る、波を蹴破る西京丸。奮闘激戦雷を驅り、電を突く裂く赤城艦。轟裂の響天を撃ち、或は沈み、または焼け、または逃げ散る敵の艦。凱歌の聲も高千穂の檣頭さして下る鷹。

若 紫

(一) リカ ムラ サキノー メモ ハル カナ ルー
 (二) わかなは なにぞー すずしろ すずなー
 (三) ナナツノ タカラ ソレヨリ コトニ

ム サシノー ノー カスミノ ガーター
 ほとけのー ざー ばこべら せーりー
 エガターキー ハー ユキダノ ヒーマー

ワ ケ ツ ツ ツニ ムー ハ ヅ レー カ ナー
 な づ な に ごー きー な な つー な リー
 タ ブ ネ テ ツー ムー ソ カ ナー ナ ヴー

(第四集)

若 紫

(一) わかむらさきの めもはるかなる 武藏野の
 霞のおく、わけつゝ摘む 初若菜。

(二) わかなはなにぞ。すずしろ、すずな、ほとけのざ。

はこべら、せり、なづなにごぎよー、七つなり。

(三) なつたの寶、それよりことに 得がたきは、

雪消のひま たづねてつむ 若菜なり。

(第四集)

薫に知らるゝ



 (一) カチリニ シラルル ハナサク ミツノー
 (二) つきかげ てりそふ のなかの しみづー
 カスミニ カクルル トリナク ハヤ シー
 もみちば にほへる とやまの ふもとー
 キミがヨ イハヒテ イクハル マデ モー
 きみがよ たえせず いくあき までもー
 カチレヤ カチレヤ ウタヘヤ ウタヘー
 てらせや てらせや にほへや にほへー

(第四集)

薫に知らるゝ

- (一) かをりに知らるゝ 花さくみその。
 霞にかくるゝ 鳥なくばやし。
 君がいはいひて、いく春までも、
 かをれや。かをれや。うたへや。うたへ。」
- (二) 月かげてりそふ 野中のしみづ。
 もみちばにほへる とやまのふもと。
 きみがよ、たえせず、いくあきまでも、
 てらせや。てらせや。にほへや。にほへ。」

(第四集)

豊太閤

(一) ソノミハフイニガコレドモク
 (二) おもひてならぬこともな
 (三) ノーコルイサチハイマモナ
 (四) ひーとはいちだいなほちとせ

クラホハヒトノーカミニタチ
 セーめてとらざるしるもな
 カガミトナリテヨナテラ
 えいゆーしせすーほれくす

ロクシュヨシュチガノガテニ
 くーにのいめいをかいがいに
 トヨトミタイコヒテヨシハ
 おほさかじーのまつあわし

ニギリシヒトハタレナルゾ
 あげたるひとばたれなる
 アーヒトナルカカミナ
 あーほたいこひでよし

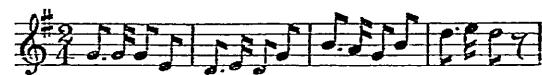
(第四集)

豊太閤

(第四集)

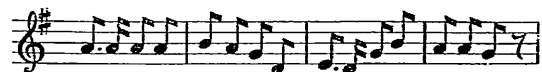
- (一) その身は布衣に起れども、位は人の上に立ち、
六十餘州をおのが手に握りし人は、誰なるぞ。
- (二) 思ひてならぬ事もなく、攻めて取らざる城もなく、
國の威名を海外にあげたる人は、誰れなるぞ。
- (三) 残る功は今もなほ鑑となりて、世を照す
豊臣太閤秀吉は、あゝ人なるか神なるか。
- (四) 人は一代名は千歳英雄死せず、骨朽ちず。
大阪城の松青し。あゝ豊太閤秀吉公。

海國男兒



1. 1 1 6 | 5. 6 5 1 | 3. 2 1 3 | 5. 6 5 0 |

(一) ススメヤ ススメヤ カイコク ダンジ
(二) まもれや まもれや かいこく だんじ
(三) ススメヤ ススメヤ カイコク ダンジ
(四) まもれや まもれや かいこく だんじ



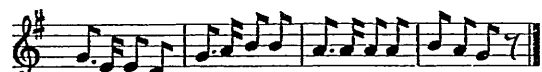
2. 2 2 2 | 3 2 1 5 | 6. 5 1 3 | 2 2 1 0 |

ヤマナス アラナミ タチクル ナカチ
いっけい ふえきの わがてい こくを
コホリニ ミチナキ ホッカイ マデモ
そせんの ふんぼの このわが とちな



5. 5 5 5 | 6. 6 6 6 | 5. 6 5 3 | 1 3 2 0 |

ケヤブリ ススムハ ワレラガ ニンゾ
しかいに めぐらす あなうな ばらば
アサヒノ ミハタノ ヒラメク カゲチ
もーこの てっかん しづめし うみは



1. 6 6 5 | 1. 2 3 3 | 2. 2 2 2 | 3 2 1 0 |

ナニカハ オソレン ヲダツミ ノシロ
こーその あたへし とりでの ほりぞ
ミンコソ ワレラガ ミライノ ノゾミ
ほーこー ぎゆうの せんこの かがみ

(第四集)

海國男兒

(第四集)

- (一) 進めや進めや海國男兒。山なす荒波立ちくる中を
蹴やぶり進むは、われらが任ぞ。何かは恐れん、海神の城。』
- (二) 守れや守れや海國男兒、一系不易のわが帝國を。
- (三) 四海にめぐらす青海原は、皇祖の與へし岩の濠ぞ。』
進めや進めや海國男兒。氷に道なき北海までも、
旭の御旗のひらめく影を 見んこそ、われらが未來の望。』
- (四) 守れや守れや海國男兒、祖先の墳墓のこのわが土地を。
蒙古の敵艦しづめし海は、奉公義勇の千古の鑑。』

白蓮白菊



| 3 3 5 5 | 6 6 5 5 | 6 6 5 3 | 2- 0 |

(一) ドーロノ カチヨリ ヌケイデ テー

(二) くさきも かーれし そののう ちー



| 2̣ 2̣ 7 7 | 6 6 5 5 | 3 3 5 5 | 6- 0 |

ニゴリニ シーマヌ ハナハチ スー

ゆきにも いーろは まさりぐ きー



| 6 6 6 1̣ | 2̣ 2̣ 7 7 | 6- 5 7 | 6- 5- |

ツーキノ ヒカリカ ヒールス ゴーケー

いただく しーもは みーなよ そーひー



| 3 3 5 5 | 6 6 5 3 | 2 2 1 1 | 2- 0 |

シーモト サユレバ ナツサム シー

さえゆく つーきほ かににほ ふー

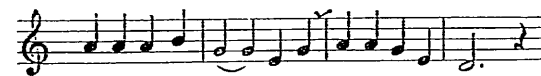
白蓮白菊 (つづき)



| 5 5 5 3 | 6- 5 5 | 3 3 5 5 | 6- 0 |

ミダレル ツーユハ タマトミ エー

つーゆは くすりときくのみ づー



| 6 6 6 7 | 5̣ 5̣ 3 5 | 6 6 5 3 | 2- 0 |

カチャレル カーゼハ ミニソシ ムー

うーめは みさなの おのがとしー



| 2̣ 2̣ 1̣ 1̣ | 2̣ 2̣ 7 7 | 6- 5 5 | 3- 5- |

コホリノ スーガタ ユーキノ イーロー

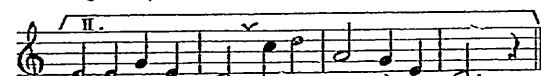
やーみの よほさへ てーらす なーりー



| 3 3 5 5 | 6 6 5 5 | 3 3 5 3 | 2- 0 ||

ツーユナ ケガシソ ヨノナリ ニー

とーりの もーとに



| 3 3 5 3 | 2- 1̣ 2̣ | 6- 5 3 | 2- 0 ||

ふみやみ んーふみ やーかー んー

白蓮白菊

(一) 泥のうちより ぬけいでて、にごりにしまぬ はなはちす。

月の光か ひるすごく、霜とさゆれば、夏さむし。

亂るゝ露は たまとみえ、かをれる風は 身にぞしむ。

氷のすがた、雪の色、つゆなげがしそ、世のちりに。」

(二) 草木もかれし 園のうち、雪にも色は まさりぐさ。

いたたく霜は 身をよそひ、さえゆく月は 香ににほふ。

露はくすりと きくのみづ。梅はみさをの おのがとも。

暗の夜さへ 照すなり。東籬のもとに 書や見ん。書や見ん。」

(第四集)

(第四集)

陸 戦



5 1 1 1 1 1 1 1 | 5 5 6 1 2 - | 3 2 1 1 6 1 6 |

(一) モリニータナビク カスガスミ アヒダチメヒテ

(二) うてのーごーれい よしさらばー いっせいしげき

(三) コヤマノウヘニー ホーレンヲチー ミカタハシキテ

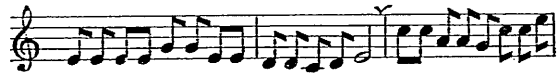


5 5 5 6 5 - | 1 1 6 1 2 1 6 1 | 5 5 5 6 5 - |

ウゴメクハ マギレモアーラヌ テキヘイゾー

こちよやー かーしらかすめて なりすぐるー

ヒノアメチー テキツンメカケテ アビセタリー

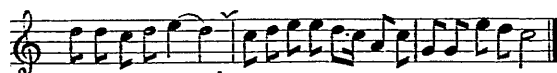


3 3 3 3 5 5 3 3 | 2 2 1 2 3 - | 1 1 6 6 5 1 1 3 |

セントー イマニー ハジマランー テーナミミスルハ

たまのー おとばや みみなれぬー きーくしたのもし

ヒビキハ テンサチ ウゴカシテー パーッタチタル



2 2 1 2 3 2 | 1 2 3 3 2 1 6 1 | 5 5 3 2 1 ||

コノトキノー オクレハトー ラジ イザススメー

いさみたー いななきかー ぼす こまのこゑー

スナケムリー ハレタルアートハ テキモナジー

陸 戦

- (一) 森にたなびくうす霞、間をぬひて、うごめくは、
紛もあらぬ敵兵ぞ。戦鬪今にはじまらん。
手なみ見するはこの時ぞ。おくれは取らじ。いざ、進め。」
- (二) 撃ての號令。よし、さらば、一齊射撃こゝちよや。
頭かすめて鳴りすぐる 丸の音はや耳なれぬ。
聞くもたのもし、勇み立ち、いなゝきはす駒の聲。」
- (三) 小山の上に砲列を 身方は布きて、火の雨を

(第四集)

(第四集)

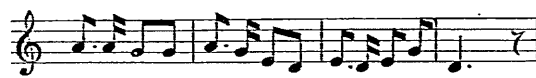
- 敵陣めがけて、あびせたり。響は天地をうごかして、
ぱつと立ちたる砂けむり。はれたるあとは敵もなし。」
- (四) 雙眼鏡を手にとりて 立てる身方の司令官、
時は到るとさしまねく。傳令命をかしこみて、
飛鳥のごとく驅けてゆく。馬上の様のいさましや。」
- (五) 進撃喇叭鳴りわたる。すはや、待ちたる突撃ぞ。
銃劍構へて押しよする 勇敢無雙のわが歩兵。
敵はいかでか支ふべき。あれ、見よ、身方の聯隊旗。」

修學旅行



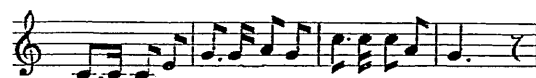
1. 1 1 3 | 5. 5 6 5 | 1. 1 1 6 | 5. 0 |

(一) アサカセ キョクー アシカロク
(二) のべにー はなあり いざつまん
(三) ニッキニ ツケテー ヲスレヌハ
(四) すぎゆく さとのー ちりれきし



6. 6 5 5 | 6. 5 3 2 | 3. 2 3 5 | 2. 0 |

ワガコー アトニー タチイヅル
やまにー いしあり いざとらん
ヨシアル ツカノー モノガタリ
こころー とどめて みてきき



1. 1 1 3 | 5. 5 6 5 | 1. 1 1 6 | 5. 0 |

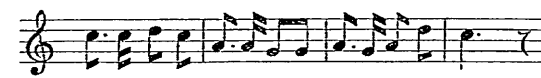
シューガク リョコノ オモシロサ
ならひし がっかの じっけんも
ヒタヒノ アセハー タマニニテ
らしきー すすむる このリョコ

修學旅行 (つづき)



6. 6 5 5 | 6. 5 3 1 | 2. 2 3 2 | 1. 0 |

ウレシヤ ニハノー コトリマデ
いざこのときぞー おこたるな
シーノギ カネタル アツサナモ
いさむー わらに あさづゆな



1. 1 2 1 | 6. 6 5 5 | 6. 5 6 2 | 1. 0 |

チシク ススムー タビダチノ
えにして みたきー ふーけいは
ハーラフ チザサノ ユフアラシ
ふーめば ゆらめき おきかへる



2. 1 6 5 | 6. 5 3 1 | 2. 2 3 2 | 1. 0 ||

ホチョー アハセテ リタフナリ
いそべに たてるー まつひと
タビザハ ツラキー モノナラズ
なでしこ おほしー こののべは

修學旅行

(一) 朝風あさかぜきよく、足あしかるく、わが校こうあとに立たちいづる

修學旅行しゅうがくりょのおもしろさ。うれしや、庭にはの小鳥ことりまで、

を、しく進む旅たびだちの

歩調ほちようあはせて、歌うたふなり。」

(二) 野邊のべに花はなあり。いざ、摘つまん。山やまに石いしあり。いざ、採とらん。

習ならひし學科がつかの實驗じっけんも、いざ、この時ときぞ。おこたるな。

畫えにして見みたき風景ふうけいは、

磯邊いそべにたてる松まつひと木き。」

(第四集)

(第四集)

(三) 日記にっきにつけて忘れわすぬは、よしある塚つかのものがたり。

額ひたひの汗あせは玉たまに似にて、しのぎかねたるあつさをも

はらふ小笹かささぎの夕ゆふあらし。

旅路たびぢはつらきものならず。」

(四) 過すぎゆく里さとの地理歴史ちりれきし 心こころとどめて見みて、聞ききて、

知識ちしきすゝむるこの旅行りょこう。勇いさむわらちに朝露あさづゆを

ふめば、ゆらめき、おきかへる

撫子なでしこおほし、この野邊のべは。」

螢の光

5 1. 1 1 3 2. 1 2 3 1 1 3 5 6-0

(一) ホ と ル ノ ヒ カ マ ド ノ ユ キ
(二) タ ル ノ ヒ カ マ ド ノ ユ キ
(三) ツ シ ノ キ ハ ミ ミ ナ バ
(四) ツ シ ノ キ ハ ミ ミ ナ バ

6 5. 3 3 1 2. 1 2 3 1. 6 6 5 1-0

フ ミ ヲ ツ キ ヒ カ サ ツ ツ
カ ミ ヲ ム お フ ち ェ る づ の
リ ミ ヤ マ ト ち へ ツ ト モ
ヤ ミ シ マ の ー の ー リ

6 5. 3 3 1 2. 1 2 6 5. 3 3 5 6-0

イ ツ シ カ ト シ モ ス ギ ノ ト ナ
ニ ノ マ ゴ ー し な ひ ー ト ナ
ソ ノ ゾ ん に へ に ー テ ナ
い た ら く に ー し ー な し

6 5. 3 3 1 2. 1 2 3 1. 6 6 5 1-0

ア ケ ツ ケ バ サ ハ ヲ カ レ ユ ク
ミ ト ニ ツ ー ー ー ナ
ヒ ト ヲ ヲ ー ー ー タ
ツ ト ヲ ヲ ー ー ー ナ

(第四集)

螢の光

- (一) 螢の光、まどの雪。 ふみよむ月日かさねつゝ、
いつしか年もすぎの戸をあけてぞ、けさは別れゆく。
とまるも、ゆくも、かぎりとして、かたみにおもふ千萬の
心のはしを、一言に さきくとばかり歌ふなり。
(三) つくしのきはみ、陸の奥。 うみやま遠くへだつとも、
その真心はへだてなく、ひとつにつくせ、國のため。
(四) 千島の奥も、沖繩も、やしまのうちのまもりなり。
いたらん國にいさをしく、つとめよ、わがせ、恙なく。

(第四集)

汽 船



(一) 汽笛一聲、うらひびき、船は港を離れたり。

(二) 観音崎の燈臺は、見るくあれに近づきぬ。

(三) 飛びたつ鷗、出で入る帆かけ。墨繪に似たる海原を。

(四) はしる船路の、こゝちよさ。

(五) 東京灣も、はやすぎて、針路は右に轉じたり。

(六) はてなき波路、つらなる雲路。この海こそは、忘るなよ。

(七) 日本男兒の、故郷ぞ。

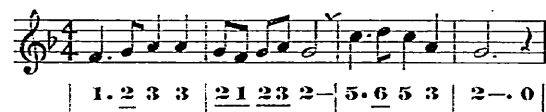
(第四集)

汽 船

(第四集)

- (一) 汽笛一聲、うらひびき、船は港を離れたり。
- とどろく車、たなびく煙。望を胸にあつめつゝ、
- はや横濱をはなれたり。
- (二) 観音崎の燈臺は、見るくあれに近づきぬ。
- 飛びたつ鷗、出で入る帆かけ。墨繪に似たる海原を
- はしる船路の、こゝちよさ。
- (三) 東京灣も、はやすぎて、針路は右に轉じたり。
- はてなき波路、つらなる雲路。この海こそは、忘るなよ。
- 日本男兒の、故郷ぞ。

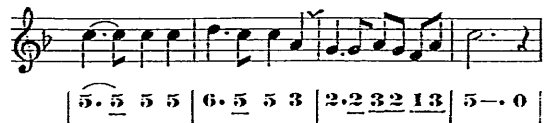
川すずみ



(一) イ シ チ モ トーカースーナツノヒ モー
 (二) とーもと たーがーびにかいとりてー
 (三) テリシモ イーグールーツキカゲ ノー



ハヤニシ ヤーマニ シヅミケ リー
 こころの まーまに ふれやれ ばー
 ミーグニ ワツリテ イトキョ グー



イーザヤ チガハニ フネウケー テー
 とびかふ ほーたる みだれーつー つー
 ミーゾラ コギユク ココチーシー テー



ヒールノ アーツーサチ リスレデ ンー
 ふさくる かーぜーのーいとすず しー
 フケユク ヨールーゾー ナシマル ルー

川すずみ

(一) 石をもとかす夏の日も、はや西山に沈みけり。

いざや、小川に舟うけて、晝のあつさをわすれてん。

(二) 友とたがひに櫂とりて、心のまゝに舟やれば、

とびかふ螢みだれつゝ、吹き来る風のいと涼し。

(三) をりしもいづる月かげの 水にうつりていと清く、

み空こぎゆくこゝちして、ふけゆく夜ぞ惜まるゝ。

植 物 園



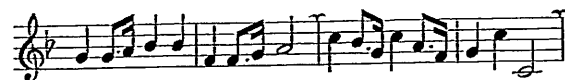
5̣ 1̣.3̣ 5̣ 5̣ | 6̣ 5̣.3̣ 1̣- | 3̣ 2̣.7̣ 5̣ 5̣ | 6̣ 6̣ 5̣-

(一) ハナ-アル ハル-ノ- ノド-ケ キ シセツ-
 (二) すす-しき なつ-の- わか-げの じせつ-
 (三) ナカ-サニ アキ-ノ- ハナ-サキ シセツ-
 (四) ゆき-ふる ふゆ-の- さび-しき じせつ-



5̣ 1̣.3̣ 5̣ 5̣ | 6̣ 5̣.3̣ 1̣- | 2̣ 1̣.2̣ 4̣ 7̣ | 2̣ 2̣ 1̣-

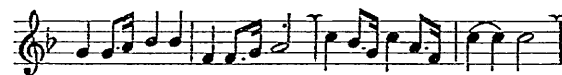
ショク-アツ エン-ニ- ユケ-ソガ トモヨ-
 しょく-ぶつ えん-に- ゆけ-わが としよ-
 ショク-アツ エン-ニ- ユケ-ソガ トモヨ-
 しょく-ぶつ えん-に- ゆけ-わが としよ-



2̣ 2̣.3̣ 1̣ 4̣ | 1̣ 1̣.2̣ 3̣- | 5̣ 4̣.2̣ 5̣ 3̣.1̣ | 2̣ 5̣ 5̣-

イチ-シニ ヒラ-ク- ヤマ-ブキ- ツツ シ-
 うつ-ぎば しろ-き- かき-れの- つきよ-
 アサ-ブユ シゲ-キ- シラ-ギク- キギク-
 おく-しし しろ-き- まが-きの- うちに-

植 物 園 (つづき)



2̣ 2̣.3̣ 1̣ 4̣ | 1̣ 1̣.2̣ 3̣- | 5̣ 4̣.2̣ 5̣ 3̣.1̣ | 5̣ 5̣ 5̣-

ヤマ-ニハ サク-ラ- イケ-ニハ- フーデ-
 かへ-では あか-き- こず-点の- あさひ-
 ユフ-カセ ソタ-ル- ハギ-サミ- ナヘシ-
 のこ-りて さげ-る- すい-せん- あはれ-



5̣ 1̣.3̣ 5̣ 5̣ | 6̣ 5̣.3̣ 1̣- | 3̣ 2̣.7̣ 5̣ 5̣ | 6̣ 6̣ 5̣-

ウツ-ク シ ウレ-シ- スミ-レモ サカリ-
 うつ-く し うれ-し- あや-めも さきめ-
 ウツ-ク シ ウレ-シ- マク-ズニ ナバナ-
 うつ-く し うれ-し- さざ-んか つばき-



1̣ 3̣.5̣ 1̣ 1̣ | 1̣ 6̣.7̣ 1̣ 1̣.2̣ | 3̣ 3̣.4̣ 2̣ 2̣.3̣ | 1̣- 0̣

ナガ-メテ アソ-ベア- ソビテウタ- へ-
 なが-めて あそ-べあ- そびてうた- へ-
 ナガ-メテ アソ-ベア- ソビテウタ- へ-
 なが-めて あそ-べあ- そびてうた- へ-

植物園

- (一) 花ある春ののどけき時節、植物園にゆけ。わが友よ。
一時にひらく山吹つゝじ、山には櫻池にはふぢ。
美し。うれし。すみれも盛。ながめて、遊べ。あそびて、歌へ。」
- (二) すすしき夏のわかばの時節、植物園にゆけ。わが友よ。
卯つ木は白き垣根の月夜、かへではあかき梢の朝日、
美し。うれし。菖蒲も咲きぬ。ながめて、遊べ。あそびて、歌へ。」

(第四集)

(第四集)

- (三) 千草に秋の花さく時節、植物園にゆけ。わが友よ。
朝露しげき白菊黄菊、夕風わたる萩をみなへし、
美し。うれし。眞葛に尾花、ながめて、遊べ。あそびて、歌へ。」
- (四) 雪ふる冬のさびしき時節、植物園にゆけ。わが友よ。
おく霜しろき籬のうちに 残りて、さける水仙あはれ。
美し。うれし。山茶花つばき ながめて、遊べ。あそびて、歌へ。」

漁業の歌

3 6 7. 7 | 1 7 6- | 3 1 7. 6 | 7- 0 |

(一) ミツタス カギリー ハルバル トー
(二) みわたす かぎりー ぼても なくー

6 6 1 1 | 6 6 3- | 1 3 2. 2 | 3- 0 |

ウナバ ラ ウヅムー ギギー セー
ばまべに きづくー うなの や まー

2 2 3 3 2 2 3 | 4 3 1 6 7- | 1 1 7 7 1 1 7 7 |

エモノチイハフ コエゴエハー テンチーユスリテ
このやまこそは わがくにのー ふこくのいしす点

1 7 6 7 1 1 3 | 1 1 3 1 1 3 3 | 4 3 2 3 1 6 7 |

ソラカキクモリ ウミチユルガシ ナミシルガヘル
りみんのもとあ しげきたちきの なにたぐひぞは

1 7 0 3. 3 1 6 | 7- 3 6 7. 1 | 6- 0- |

ア ナ ココチヨ ヤ イサマシ ヤー
あ な たふとし や めでたし やー

(第四集)

漁業の歌

(一) 見渡すかぎり遙々と 海原うづむ漁業船。
えもの いは こゑこゑ
獲物を祝ふ聲々は 天を揺りて、空かきくもり、
うみ ゆるが なみ
海を動し、波ひるがへる。
あな、こゝちよや、勇しや。」

(二) 見渡すかぎりぼてもなく、濱邊に築く魚の山。
みわた うなばら
この山こそはわが國の 富國の礎、利民の基。
やま ふこく いしす点
茂木立木の何たぐひぞは。
しげきたちきの なに
あな、たふとしや、めでたしや。」

(第四集)

勤勉正直

mf

(一) ヒ ト ウ マ レ シ シ ル シ ニ ハー
(二) ヒ ミ ヨ ヤ ミ ナ シ ゴ キ (イ) ん じ ろ ー
(三) ヒ ロ ト ト ウ マ レ シ シ ル シ ニ ハー
(四) シ る ヤ ナ サ ナ ゴ ワ シ (イ) ん と (お) ん

イ ヘ ナ セー ミ ナー ヨー
ア リ と あ ゆ う き め み て
ナ ホ ク シー コ コー ロ モ テー
チ に い ば リ ば ざ リ し

カ ギョー ハ ゲ マー バ イ ヘー ハ ト ミー
ヒ と に す ぐ れ ー し ひ と と な リー
ウ ツ ハ ツ ノ パー ナ ツ クー ロ ヘ ドー
ナ ほ き こ る ー ば あ めー リ か のー

マ ナ ハ ゲ マー バ ミ ハー タ (ア) ター
の ナ の よ ま でー も あ ふー が る る
び が の か し らー と あ ふー が る る

(第四集)

(第四集)

勤勉正直

- (一) 人とうまれしるしには、家を富せよ、身をたてよ。
家業勵まば、家は富み、まなび勵まば、身はたゝん。
- (二) 見よや、みなしご金次郎。ありとあらゆるうきめみて、
人にすぐれし人となり、後の世までも仰がるゝ。
- (三) 人とうまれしるしには、直く正しき心もて。
うそはそのばをつくらへど、永くわが身のきずとなる。」
- (四) 知るや、をさなごワシントン。父に偽いはざりし
直き心は、アメリカの 人のかしらと仰がるゝ。

勅語奉答



1-2 3 | 6. 6 5 2 | 3 4 4 3 | 3-2 0 |
ア-ヤニ カシコキ スメラギ ノー



1-2 3 | 6. 6 5 2 | 3 5 7 6 | 5- 0 |
ア-ヤニ タフトキ スメラギ ノー



1-7 6 | 5 5 4 3 | 2 3 4 5 | 4-3 0 |
ア-ヤニ タフトク カシコク モー



1-7 6 | 5 5 4 3 | 6 4 3 2 | 1- 0 |
ク-ダシ タマヘリ オホミコ トー

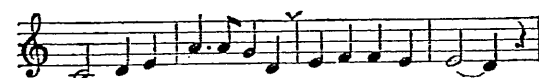


2-2 2 | 5 4 3 2 | 4 3 2 1 | 3-2 0 |
コ-レゾ メデタキ ヒノモト ノー
コ-レゾ メデタキ ヒノモト ノー

勅語奉答 (つづき)



5-5 5 | 6 5 4 3 | 5 5 4 3 | 2- 0 :||
ク-ニノ チシヘノ モトキナ ルー
ヒ-トノ チシヘノ カガミナ ルー



1-2 3 | 6. 6 5 2 | 3 4 4 3 | 3-2 0 |
ア-ヤニ カシコキ スメラギ ノー



1-2 3 | 6. 6 5 2 | 3 5 7 6 | 5- 0 |
ミ-コト ノママニ イツシミ テー



1-7 6 | 5 5 4 3 | 2 3 4 5 | 4-3 0 |
ア-ヤニ タフトキ スメラギ ノー



1-7 6 | 5 5 4 3 | 2 3 4 5 6 7 | 1- 0 ||
オ-ホミ ココロニ コタヘ マーツ ラン

勅語奉答

(一) あやに畏^{かしこ}き天皇^{すめらぎ}の、

あやに尊^{たふと}き天皇^{すめらぎ}の、

あやに尊^{たふと}く畏^{かしこ}くも

下^{くだ}したまへり、大勅語^{おほみこと}。

これぞめでたき日^ひの本^{もと}の

國^{くに}の教^{をしへ}のもとぬなる。」

(第四集)

(第四集)

(二) これぞめでたき日^ひの本^{もと}の

人^{ひと}の教^{をしへ}のかがみなる。

あやに畏^{かしこ}き天皇^{すめらぎ}の

勅語^{みこと}のまゝに勤^{いそし}みて、

あやに尊^{たふと}き天皇^{すめらぎ}の

大御心^{おほみこころ}にこたへまつらん。」

學校紀念日



(一) リガナツ カーシキ マナビヤ ノー
(二) やーまと なでしこ おひいで んー



タチタル ツーキヒ メグリキ ノー
なしへの にーはぞ たのもし きー



イザモロ トーモニ リタヒツ ツー
ひらきし とーきは かへりき つー



チーヨノ サカエサ イハハマ シー
いーざや いはほん みなひと もー

(第四集)

學校紀念日

(一)

わがなつかしき まなびやの
たちたる月日 めぐりきぬ
いざ、もろともに うたひつゝ、

(二)

大和撫子^{やまとなでしこ} おひいでん
千代^{ちよ}のさかえを いはゝまし。
をしへのにはぞ たのもしき。
ひらきし時は^{とき} かへりきつ。
いざや、いはゝん、みなひとと。

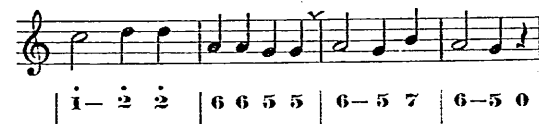
始業式



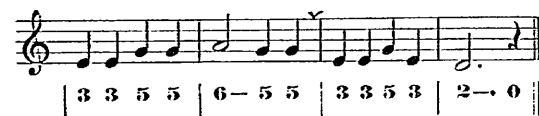
(一) ケ フ ヨ リ ヒー ラ ク コ ノ ニ ハ ノー
(二) け さ よ み まー つ る す め ら ぎ のー



マ ナ ビ ノ マー ド ノ ア ケ ク レ ニー
み こ と の む れ な か し こ み てー



ツー ト メ ハ ゲ ミ テ モー ロ ト モー ニ
ひ と た る みー ち な なー さ め つー つ



イ ザ フ ミ ワー ケ ン ヒ ト ノ ミ チー
い ざ つ く しー て ん く に の た めー

(第四集)

始業式

(一) 今日より開くこの場の

學の窓のあけくれに、

勤め勵みて、もろともに、

いざ、ふみわけん、人の道。

(二) 今朝読みまつる天皇の

勅語のむれを畏みて、

人たる道を修めつゝ、

いざ、盡してん、國のため。

(第四集)

終業式



(一) マナビノ マードニ ケフアス トー
(二) まなびの にーばよ わがとも よー



オクリム カヘテ ヒトトセ ヘー
しばしわ かれん いざさら ばー



ハーヤ モ スギケリ イツシカ ニー
またこん とーしも さちあれ とー



ソガシノ キーミ ヨ イザサラ パー
こーころ ひとつに いのりつ っー

終業式

(一)

まなびの窓に今日明日と
送り迎へて一年は

はやも過ぎけり、いつしかに。

わが師の君よ。いざ、さらば。

(二)

まなびのにはよ。わが友よ。
しばし別れん、いざ、さらば。

また來年も幸あれと、
心ひとつに祈りつ。

卒業式

(一) 朝^{あさ}な夕^{ゆふ}なに怠^{おこた}らず

分^わけし山^{やま}路^ぢのかひありて、
今^け日^ふぞ折^なりつる、嬉^{うれ}しくも、

外^と山^{やま}のかつら一^{ひと}枝^{えだ}を。」

(二) この一^{ひと}枝^{えだ}を葉^{しかり}にて、

折^ならで、止^やまじ、山^{やま}深^{ふか}くたどりつゝ、
なほ山^{やま}深^{ふか}くたどりつゝ、

たなびく嶺^{かね}のそほづゑ。」

たなびく嶺^{かね}のそほづゑ。」

卒業式



(一) ア サナユフ ナニナ コータラ ズー
(二) このひとえ だ-な し な-りに て-



ワ ケシヤマ ダーノカ ヒーアリ テー
な ほやまふ か-くた ど-りつ つ-



ケ フンチリ ツールク レーシク モー
な らでばや ま-じし ら-くも の-



ト ヤマノカ ツーラヒ トーエダ ナー
た なびくみ れ-の そ の-ほづ 点-

日の丸の旗

mf

5. 6 5 3 | 1. 2 3 3 0 | 4. 3 2 1 2 | 3 5 2 2 0 |

(一) ヨ ロ プ ノ ク ニ ノー シ ル シ ノー ハ タ ニー
(二) ヘ ダ タ ル ク に のー ミ ナ と のー ふ れ にー
(三) マ ナ ビ ノ ニ ハ ニー サ ナ シー ト ゲ テー

f

5. 6 5 3 | 1. 2 3 3 0 | 2 5 7. 6 | 5 4 5 5 0 |

ス グ レ テ ミ ユ ルー リ ガ ヒ ノ ミ ハ ター
め だ ち て み ゆ るー わ が ひ の み は たー
ヒ ガ シ ニ ニ シ ニー セ カ イ ノ ウ ナ ニー

mf

6. 5 4 2 3 | 2. 1 7 7 0 | 7. 5 3 2 1 | 6. 5 5 5 0 |

イ ハ ヒ ノ ヒ ニ モー マ ツ リ ノ ヒ ニ モー
い づ く に ゆ く もー わ が く に び と はー
ッ ガ ヒ ノ ミ ハ ター カ ガ ヤ ク ゴ ト クー

mf

5. 6 5 3 | 1 2 3 2 3 | 5 4 2 3. 2 | 1 1 0 5 - |

ミ ク ニ ノ ヒ カ リ ト ア フ キ テ タ ツ ルー アー
み く に の さ か え ない ひ び て た つ るー あー
ミ ク ニ ノ ホ マ レ テ ハ ゲ ミ テ ア (ア) ゲ ャー アー

ff

1 - 6 6 7 6 | 5 5 0 1 2 3 | 6 - 5. 5 | 1 - 1 0 0 |

アー メ デ タ シ ヤー ヒ ノ マ ルー ノ ハ ター
あー な つ か し ヤー ひ の ま るー の は たー
アー イ サ マ シ ヤー ヒ ノ マ ルー ノ ハ ター

(第四集)

日の丸の旗

(第四集)

- (一) 萬の國のしるしの旗に すぐれて見ゆるわが日の御旗。
祝の日にも、祭の日にも、御國の光と仰ぎてたつる、
あー、めでたしや、日の丸の旗。
- (二) 隔たる國の港の船に めだちて見ゆるわが日の御旗。
いづくにゆくも、わが國人は、御國の榮を祝ひてたつる、
あー、なつかしや、日の丸の旗。
- (三) 學のには業なしとげて、東に、西に、世界のうちに、
わが日の御旗輝くごとく、御國の譽を上げみてあげん。
あー、いさましや、日の丸の旗。

教育唱歌全八冊

明治二十九年一月二日第一集	印刷
明治二十九年一月十日第一集	發行
明治二十九年五月十五日第二集	印刷
明治二十九年五月廿六日第二集	發行
明治二十九年八月一日第一集訂正再版發行	發行
明治二十九年十二月廿五日第二集訂正再版發行	發行
明治三十年十二月十五日第二集訂正三版發行	發行
明治三十年十二月廿五日第一集訂正三版發行	發行
明治三十一年七月五日第二集訂正四版發行	發行
明治三十八年八月十四日修正五版印刷	
明治三十八年八月十七日修正五版發行	

定價各冊金拾五錢

著作權所有★不許拔萃

編纂者 教育音樂講習會

發行者 西野虎吉
東京市小石川區小日向水道町七十三番地

印刷者 野村宗十郎
東京市京橋區築地三丁目十五番地

發行所 東京開成館
東京市小石川區小日向水道町七十三番地
電話特番町三五五番

發行者 大阪市心齋橋通北久寶寺町角
大阪開成館 三木佐助

發行者 東京市日本橋區通三丁目
六合館 林平次郎

